

## 第5B分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」

### 研究主題「教職員のICT活用能力を高めるために教頭の関わりはどうあればよいか」

～校内研修と校務の効率化を通して～

延岡市中学校教頭会 2班

#### 1 主題設定の理由

文部科学省が掲げる「新たな教育振興基本計画」の中で、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つに「教育デジタルトランスフォーメーションの推進」が示され、GIGAスクール構想の取組が一層加速していくことが予想される。これを受けて延岡市では令和2年度からGIGAスクール構想の具現化が図られ、1人一台の端末が配置されている。また、同年から校務支援システムC4thの導入も始まり、コロナ禍の中、県・市教育委員会の指導のもと各学校においてICTの効果的な活用を推進してきた。

延岡市「わかあゆ教育プラン」では目指す子ども像を「幸動 自他の幸せのために学び行動する子ども」とし、基本方針の中に「ICT利活用の推進」があげられている。また、「学校教育情報化ハンドブック(延岡市教育委員会)」にはICT活用における学校と行政の役割、市が目指す方向性、育てたい児童生徒の姿、教職員のICT利活用ステップ等が示されている。ICTの活用は教育現場の喫緊の課題であり、活用環境もある程度整い、全職員が参加する研究授業や校務におけるICT活用研修も多種多様に開催されている。

しかし、各学校における授業改善や校務の効率化におけるICTの活用状況については、これまで情報共有の場がほとんど無く、各学校が現場の努力で職員構成や学校規模に応じた活用の在り方を模索している状況である。

そこで本研究では、まず延岡市内中学校におけるICTを活用した授業改善と校務の効率化の概要を把握し、教頭会で情報共有を行う。それぞれの学校において状況が異なるため、共通解を導き出すことは困難と思われるが、教頭間で各学校のICT活用状況について情報交換・分析を行い、それぞれの学校に適した効果的な具体策を講じることで教職員のICT活用能力が高まり、校務の効率化を進めることにもつながると考え、本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

教頭が市内各中学校のICT活用状況を把握し、ICT活用に関する校内研修や校務の効率化において方向性を示し組織を動かすことで、教職員のICT活用指導力を高めるとともに校務DXを通じた校務の効率化を推進する。

#### 3 研究の概要と成果

##### (1) ICTを活用した授業改善

###### ① アンケート結果(市内14校から回答)

○主題研は学力向上兼ICT活用である

10校/14校(71.4%)

○ICT活用に関する校内研修の回数

平均:3.2回

○ロイロノートを活用している教員数

137人/215人中(63.7%)

○キュビナを活用している教員数

108人/177人中(61.0%)

○Google フォーエデュケーションを使用できる教員数

99人/215人中(46.0%)

○ICTを活用した授業改善は進んでいる

11校/14校(78.6%)

###### ② 本市の状況(アンケート結果分析より)

本市の中学校における主題研究は学力向上とICTの活用を重ねたものがほとんどで、ICTを活用した研究授業も各学校で活発に行われている。また、市では生徒がICTを活用する授業改善を推進しており、思考を伴う協働的な学びを支援する協働学習支援ツール「ロイロノート」と個別最適な学びを支援するドリル学習ツール「キュビナ」を全学校に整備している。全学校で使用しているが、使用できる職員の割合や活用状況については各学校で差がある。

宮崎県の教育振興基本計画では、施策⑥「授業でICTを活用して指導できる」割合をR4(72.5%)→R8(90%)と目標設定しており、60%台にとどまっている延岡市の教職員の現状は大きな課題である。

- ③ 成果（効果的な実践の情報共有）
- ・ロイロノートを活用した意見交換（生徒の多様な考えを知る時に利用）
  - ・Google スライドでプレゼンを共同編集し、教師が進捗状況を見ながら指導
  - ・Classroom を使った単元のまとめなどの提出（個別に指導しやすい）
  - ・教科によってはキュビナ学習は有効。長期休業課題にも活用
  - ・技能教科（体育等）での自他の動画撮影を利用した振り返りや協議
  - ・資料やワークシートを取込むことで拡大印刷の必要がなく視覚的な支援ができる
  - ・Classroom 内のストリームや Slido アプリを用いた振り返りの共有化・可視化
  - ・Youtube で課題自己採点用に教師からの解説動画を配信（QR コードで制限）
  - ・Google Form を使った授業の振り返り

## (2) ICT を活用した校務の効率化

### ① アンケート結果（市内 14 校から回答）

○ICT 活用で校務の効率化は進んでいる  
9 校 / 14 校（64.2%）

○ICT 支援員の活用内容

- ・授業支援 ・校務支援
- ・研修支援 ・個別対応
- ・活用できていない 等

### ② 本市の状況（アンケート結果分析より）

市では校務の効率化を図り生徒と向き合う時間の創出を推進しており、総合型校務支援システム C4th と Google Workspace が全学校に導入されている。また、「Zoom」「Google Meet」を活用し、オンライン上で打合せや会議を実施したり校務の効率化を図ったりすることも推奨されている。今回のアンケート結果でも、ペーパーレス化はかなりの学校で浸透しつつあり、働き方改革の推進に寄与していると思われる。

しかし、組織的な校務 DX の進捗状況については、ICT 活用を得意とする職員がいる学校（9 校）は進んでいるが、そうした職員が不在の学校（5 校）では、せっかくの ICT 支援員さえ、どう活用すればいいかわからない、と苦慮する現状がある。

### ③ 成果（効果的な実践の情報共有）

- ・オンラインによる職朝（連絡掲示板の活用）
- ・C4th を活用した職員会・生徒理解のペーパーレス化（週行事以外はデータで確認）
- ・職員会議資料は PDF 化し、共有フォルダに保存。ペーパーレス化で配付の手間削減
- ・Google Calender を活用したペーパーレス化
- ・主題研等の校内研修で Classroom を使用し、Jamboard で意見交換
- ・学期反省を共同編集して時間短縮して記入。
- ・Google Form で主題研や授業見学後のアンケート実施（集約はスプレッドシート）
- ・Google Form で①学校評価アンケート（生徒・保護者・地域住民・教職員）。②毎月の安全点検
- ・Google meet で、①全校集会。②遠隔地講師からの授業配信
- ・Zoom で、①講演会。②PTA 関係の会合



<遠隔地講師からの授業配信>

## 4 今後の課題

- ・まずは一人一台の同種のタブレット端末を整備していく必要がある。
- ・授業における ICT 使用率向上のための職員対象研修会の時間を計画的に確保していかなければならない。
- ・同じく、ICT を効果的に活用した授業改善の職員間での共有の時間も確保していく必要がある。
- ・教科指導に有効なソフトやアプリの情報を教頭間で共有し、各学校で紹介・活用することで効率化を図る。
- ・ICT 支援員の効果的な活用法を教頭間で共有し、支援員の活用の幅を広げていかねばならない。
- ・教頭が率先して ICT 関連の情報を収集する。